

げんき通信

子宮頸がんワクチンのお話

子宮がんには子宮頸(けい)がんと子宮体(たい)がんがあり、このふたつはがんになるメカニズムや治療法が異なります。頸がんは子宮の入り口(頸部)に発生します。近年20〜30代の若い女性に急増していて、30代にピークを迎えます。若年層に多く見られるため、特に注目されるようになってきました。頸がんにはヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスが大きく関係していることがわかっていて、発がんのしくみもほほ明らかになっていきます。一方、体がんは子宮内部の内膜に発生します。女性ホルモン(卵胞ホルモンと黄体ホルモンのアンバランス)が関係していて、50代以上の人に多く見られます。

HPVウイルスってなんなの?

頸がんの原因であるHPVは世界中どこにも存在するありふれたウイルスで、100種類以上あり、男女問わず皮膚や粘膜に感染します。この中で頸がんの原因になるのは15種類程です。ただ、この感染自体は病気ではなく、治療の必要はありません。HPV

C O L U M N

げんきコラム

このくすりは…?



家の中から残っていた薬が見つかることはありませんか? 薬袋に入っていないと、誰がいつ頃もらったものかわかりませんね。薬には使用期限があるのですが、のみ薬の場合ほとんど表示されていません。外用薬(軟膏・目薬等)には記載してありますが、これは未開封の場合の期限ですので注意が必要です。また、外見や名前がよく似ていても、全然違う薬ということもよくあります。正体不明の薬は使わないで、薬剤師にお尋ねください。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください



すべての病院・医院の処方せんを受けつけ責任を持って調剤いたします。

感染はほとんどの場合一時的で、ウイルスは自然に消失します。ところが、感染した状態が数年から数十年続くと、頸がんを発症する場合があります。持続感染はなんらかの病気や喫煙などによる免疫の低下が原因となつてウイルスが消えずに残ってしまう状態です。また、一度排除されても、繰り返して感染することもあります。

HPV感染の予防ワクチン

HPV感染を予防すれば、子宮頸がんの発生を食い止めることができるこの考えか



早期発見するために検診は定期的に行いましょう。



<中の小路店:薬剤師/よこた>

このワクチンはすでに感染している人に対しては十分な予防効果は認められません。そのため、HPVに感染する前の女子児童にワクチン接種を行うことが推奨されていますが、それ以降の年齢でも受けられます。10歳以上が対象で、3回(1カ月後と6カ月後にも)接種する必要があります。日本では、助成制度が検討中のため、現状ではほとんどが自己負担となり、3回分で3〜5万円程度かかります。また、接種しても、HPVによる発がんを完全に防げるわけではないので、早期発見するために検診も必要です。子宮頸がんの早期では、自覚症状はほとんどありません。現在の検診では、がんはもちろん、がんになる前段階でも見つけることができるので、定期的を受けてください。

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

くぼ薬局

- 県庁通り店 ☎23-4550
- 中町店 ☎26-2817
- 木原店 ☎24-2233
- 中の小路店 ☎24-2882
- 西与賀店 ☎22-2311
- 医大通り店 ☎32-1133
- 北茂安店 ☎0942-89-1777